

銀行業の寡占化は金融政策に如何なる影響をもたらすか？

山本康裕

〈要旨〉

1990年度と比較して預金保険対象金融機関数は2010年度には2分の1強にまで減少、銀行業の寡占化が進行中である。この期間、政策金利は大幅に下落したが、2000年度に比して2010年度の銀行貸出額は約11%減少している。本稿では、中央銀行が政策金利の引下げや量的緩和政策を実行した場合、銀行の合併が銀行信用の増大額を拡大または縮小させるのかを導出した。価格金融政策の効果は一部例外を除いて銀行合併によって抑制され、量的緩和策の効果の一つであるリスクプレミアムの低下は、この政策の対象に合併行が含まれる場合、合併によりその効果が抑制されることが導出された。